

平成29年度 第7回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「結婚の希望をかなえる環境づくりに向けて」
- 2 日時：平成30年1月15日（月）
- 3 場所：おかやま出会い・結婚サポートセンター（岡山市北区中山下1-9-40）
- 4 参加者：結婚サポーターや結びすと、市町村や民間団体で結婚を支援している方、企業の担当者、大学生：7名
- 5 知事挨拶

結婚も出産も個人の自由だが、結婚しない人、出産しない人が増えて、地域の維持が難しくなってきた。大きく言えば、今後の国の維持ができるのかという状況で、先進国共有の悩みだ。本人の意思に反して結婚しろということはないが、アンケートを取ってみると、絶対一人が良いとか、共働きで子供を意識的に作らないといった意見は少なく、機会があれば結婚して、子どもがほしいという答えが多い。そうした希望をかなえていくため、市町村や、県、国として頑張っている。本日は、結婚支援に携わっているそれぞれの立場の忌憚ないご意見をいただきたい。

6 発言内容

【それぞれの取組等について】

- ・おかやま縁むすびネットの結びすとをやっている。おかやま出会い結婚サポートセンターの発足当初から、電話相談などで相談員をしている。様々な相談を受けるが、マッチングは難しく、イベントをしてもなかなかカップルにはならない。
- ・結びすとを始めて数か月だ。民間企業で仕事をしていた頃は、転勤族だったが、職場の女性は独身が多く、自分の人生を楽しんでいる人が多かったと思う。仕事を辞めてからつき合う人は、結婚して家庭に入って孫がいてという標準家庭の人が多い。様々な考え方の人がいるが、自分の経験も踏まえて、結婚したい人のためにお手伝いをしたいと思って始めた。
- ・美咲町では、コミュニティの維持や介護が課題であり、町として、結婚や子育て施策を重点的に行っている。結婚支援のイベントを行う場合には、町内在住在勤の男性を条件としていることが多い。町内に住みながら、町外で勤務している人も多く、将来の集落の在り方を考えたとき、そういったことを前提にして考えた方が良くと考え、町内限定という枠を取り払って、津山市など1市5町の定住自立圏で連携して取り組んでいる。ボランティアサポーターやイベント、アパレル系の会社などを巻き込んで進めていきたい。若い人の意見を反映するため、ノートルダム清心女子大学の学生に意見を聴きながら、イベントを企画したりしている。
- ・倉恋実行委員会というブライダル関係者を中心に運営している団体で、5年前から美観地区を中心に出会いのイベントを企画している。変わったイベントとして無人島を使った合コンや、大原美術館を借り切った合コンなどを開催している。参加者は各地から集まっている。この1月から本格的に結婚相談業を始めることにしたところだ。イベントは今までどおりに開催したい。
- ・社内で平成27年に「ハッピーミーティング」というマッチングのイベントをした。1回目は、男性31人、女性32人。2回目は男性15人、女性19人と、だんだん少

なくなってきた。社内だと、仕事の中身がわかってしまうとか、噂を聞いたりするので、社外の人と出会う方が良い気がしている。おかやま縁むすびネットは、昨年、県から協力依頼をいただいております、職員すべてが見ることのできる掲示板で周知している。

- ・大学の文学部で、社会学や文化人類学を学んでいる。自分自身としては、正直なところ結婚に対して、まだ、現実感湧いてない。周りの学生も自分のことで精いっぱい。
- ・大学で、子どものいる家庭に行って話を聞くという「家族留学」という授業があり、今日は、その縁で参加させていただいた。大学では、男子学生のための恋愛講座というのがあり、募集するとすぐ定員に達するほどの人気講座だ。

【結婚に関する意識等について】

・先入観を持っているわけではないが、実際の引き合わせの現場に立ち会うと「この男性は自分では見つけられないな」という人が多く、女性は逆に、「なぜ見つけられないのだろう」というぐらい、しっかりしている人が多い。女性はお付き合いと結婚は別と思っている感じもする。

・お金が目的でやっているわけではないが、イベントがきっかけで成婚したということを教えてくれる人が少ない。どういう流れで結婚したのか、他の人に活かしたいと思っているが、頑なに断る人もいる。今まで仲人をしてきた方に聞くと、信じられないと言われる。こういったカップルが増えていると感じる。

・イベントで結婚した人に聞くと、女性が年上のケースが多い。なぜかという、イベントで年齢を公開していないからだ。これは他のイベントと大きく違うところだ。「もし、最初に年上と知っていたら結婚したか」と聞くと「知っていたらわからない」という男性は多い。仲人さんたちも男性のほうが年上であることを条件にする。そういう意味では、出会うはずがない2人を出会わせている。

・大学の友人を見ると、世間一般で言うような草食系という感じはなく、つき合っている人も多いが、結婚に結び付くかと聞けば、そこまで考えておらず、期間限定のお付き合いという人が多い。大学としての特徴かもしれないが、下宿生が多く、いずれ、関東で就職したり、九州や四国から来ていて地元に戻ったりといった学生も多く、遠距離恋愛をしてまで結婚といった感じではない印象だ。だからといって、結婚そのものに否定的・消極的なわけではなく、いずれ結婚したいとは思っているようだ。

・私自身の結婚観だが、高校生ぐらいまでは、あまり結婚したいとは思わなかった。知らない人と同居を始めて、うまくいくはずがないと思っていた。授業や家族留学での話を聞き、結婚に対する意識が変わってきた部分もある。友達に聞くと、将来「結婚したい」という意見は男女とも変わらないが、今、お付き合いしている人と結婚するかどうかはわからない、イメージできないという話を聞いた。結婚をする準備として、交際などで異性に慣れることも大事ではないかと思う。

・「男性が女性を守る」と思っている人が、男女とも多いと思うが、例えば、女性が稼いで男性が家を守るということもあると思う。縁むすびネットに登録している方は、男性がしっかり働いてという意識の方が多い。もう少し考え方を広げればうまくいくこともある。

・学生同士で、親の結婚した年齢について話した時に、今の自分たちと同じか、もっと早い時期に結婚していたのがほとんどだった。自分たちが、あと1～2年で結婚すると

なったらどうすると聞くと、それはちょっと…という反応で、しばらくは働きたいという感じになる。女子がすごくきらびやかなのに対し、男子は、結婚だけではなくってファッションにも無頓着な印象だ。

- ・「彼女いないから」とか「結婚しないから」という男性の話をもう少し具体的に聞くと、興味はあるが、やせ我慢で、今の自分ではだれにも相手にされないから、とりあえず、結婚したくないと言っているだけで、イベントをすると、誰でもいいから連れてきてという男性が多い。

- ・1～2歳年上の男性と付き合っている女性の学生は、追っかけて関東で就職するような話も聞くが、男性の場合は、追っかけることまでせず、4年でお付き合いを止めるような気がする。そういった意味では、女性の方が恋愛の障壁を乗り越える力があるのかなと思う。

【結婚したい方を支援していくための課題等について】

- ・女性は年齢に応じて大人になるが、男性は幼いままの人が多く。特にコミュニケーション能力が低い人が多い。そのため、男性は同じ人が何度も婚活イベントに来てしまう。いろんな人に参加してもらいたい、そういった方が増えると、イベントの雰囲気が悪くなることもある。

- ・企画したイベントは県外からの参加者、特に女性の方が多い。いろんな自治体と話をしてきたが、倉敷より西や北の自治体は未婚の男性が多いが、倉敷に取られると思うのか、なかなかPRしてくれない。きっかけになればと思い取り組んでいるが、なかなか理解してもらえない。「倉敷でやるなら、関係ない」という自治体も多い。

- ・仕事に関しては、支店長等が面談を行うが、プライベートまで踏み込めないという話をよく聞く。結婚が決まると転勤などには配慮できるようにはなっている。社内の未婚率などを調べてきたが、女性はビジネススタッフというパート職員や嘱託がおり、総数で4,600人、男女比では1対1だ。既婚率は男性で76%、女性で63%。総じて男性の方が高いといった状況だ。年代別にみると、20代の男性は28%、女性が17%、30代になると、男性は79%になり、女性は65%になる。女性も役席になるケースが多くなっており、両立するのが難しいといった話もある。そういったところを変えていかないといけないと感じている。

- ・引合せのときに必ず話をしているのが、出会いは1つのきっかけであって、今後、お付き合いが進むかどうかは別物だということだ。「お見合い」というのは恋愛ができないから紹介されて結婚したというイメージが、今の若い人には強い。縁むすびネットに登録する人は、自分では見つけれなかった人だと思われるから言わないという感じではないか。こっそり登録して、出会って、オープンにはしないということがある気がしている。あくまできっかけなので、既成概念を取り払わないといけない。

- ・年齢が上がってくると、いろんな人を見るので、女性は目が肥えてくる。よく聞く話は「最初にお見合いした人が一番良かった」という声だ。20代前半だと、もっといい人がいるかもしれない、まだ仕事をしているので今でなくてもいいと断るが、30歳を過ぎると「前の方がよかった」となる。独身でいる方によく聞く話だ。離婚も当たり前になってきており、何が幸せかというところとわからないが、最初の勢いで結婚するということのも良いと思う。若い人に伝えるのは難しいが。

・平成28年に、美咲町の独身男女約2000人にニーズ調査をしたが「結婚を希望しない」という人が約3割弱だった。その内の4割ほどが40代女性だ。よく聞くと結婚を希望しないではなく、結婚をあきらめているということだ。イベントをしたときにマッチングするのは2〜3割程度なので、できなかった残りの8割程度のスキルアップを担うのが行政としての役割だと思っているが、小さい市町という枠の中ではなかなか進まないの、財政的な面でも県に協力してほしい。

・美咲町では、民間活力を活用し『みさきマリッジサポートセンター「え〜る美咲」』を立ち上げた。県北としても県南への流出も大きく危惧しており、県と同じシステムを導入し、マリッジコーディネーターを置いている。

・イベントに参加した男性に声をかけるが、男性のコミュニケーション能力が著しく欠けている。イベントではたまたまカップルになっただけで、交際の約束はしていないにも関わらず、勘違いして、つき合っていると思う男性がいる。次元があまりにも低すぎて、手の施しようがない。いろんな出会いのスタイルがあるが、男性は、もう少しスキルを磨いてもらいたい。女性は自分を磨くことに熱心だが、男性はそうではない。大学の授業として教えていることは知らなかったが、すごくいい取り組みだと思う。

・例えば無人島で行うイベントで、33歳までとか、30歳以上とか参加年齢を区切ると、同じイベントでも雰囲気は全く違う。倉敷で開催すると、女性が多く参加するが、逆に男性の参加が少ない。県南に人口が流出するという話があったが、こちらのイベントにどんどん参加してもらって、連れて帰ってもらっても構わない。

・会社として、結婚そのものを支援することは、直接的には難しいが、結婚後の生活を支援していきたいとは考えている。育児休業はほとんどの女性が取っているし、そういった環境は整ってきたと感じる。女性が仕事を続けるには、男性の協力が必要。我が社では、男性が1日でも2日でもいいので、育休を取る率が100%になることを目標としている。結婚後もキャリアを積むことができる施策をしていかないと、子どもを産み育てながら仕事はできないと思う。

・男性のコミュニケーション能力の欠如というのは、学生同士の普段の会話でも感じることもある。文学部は、学部生の大半が女性という状況だが、男性だけで固まってしまう、女性と関わっていきたくないという状況で、大学の中でも、男女で話すような機会は少ないと感じる。就職活動を行っていく中で、ワークライフバランスとか、育児もできるというのを伝えていただくが、年齢が20〜30くらい離れている方の話を聞いても、自分では、想像しにくい。年齢が近い人の話を聞きたいと思う。

・家族留学のときに、結婚に必要なのは、覚悟とタイミングだと言われ、年配の方にその話をするとすごく理解してくれた。私はそういった機会があったが、周りの学生にもそういう話を聞く機会があればいいと思う。男性に対しては、女性が「勘違いだよ」と注意するような講座を開いてもいいのではないかなと思う。

・若い時からの婚活はすごく大事だ。我々の時代はクリスマスケーキと言っていた。25歳を過ぎると価値が落ちるという意味だが、だから女性は24歳までに一気に結婚していた。今は、その単語自体が死語になっていて、良いようで悪い時代になってきた。もう少し、軽くお節介ができる時代の方が結婚に関しては良かったと思う。

・「将来、何歳で結婚したいですか」という問いに、20代、30代で結婚したいという

方が多く、お子さんが何人欲しいですかという問いには、男女とも2人から3人という多子家庭を望まれている。学校を出て就職して交際を始めてといった自分の人生設計を考えたときに、お付き合いして、どれぐらいで結婚してというのを想像すると30代から婚活を始めると多子家庭は難しい場合がある。小学校で「将来何になりたいか」というビジョンをみんなの前で発表するという場があるが、そういった中に、就職と併せて結婚というのを盛り込んでいけば、早いうちから、結婚を人生設計に組み込んで、少子化対策になるのではないかと考えている。

- ・自然な出会いが良いというので、テラスハウスのようなイベントを実施した。自分たちで食材を調達し、調理も自分たちでするイベントだ。カップル率が6割を超える結果が出た。男性は複数の女性と話す機会でもあり、もっと前向きに、イベントに定期的に来て、回数を重ねてコミュニケーション能力を磨くしかない。

- ・自分たちの周りでも、自然な出会いを望んでいる割合が多い。皆さんは、公式に出会いを作って、結婚に持っていこうとされているが、「出会い系」のネガティブな面を払しょくし切れていないところもあると思う。同じ部活や高校といった枠で考えられるようになればいいと思う。つき合いたいけど、合コンに来る人は嫌だといった意見もある。

- ・結婚式の司会をしているスタッフの話では、最近「婚活」という言葉自体の露出が増えたので、ここ数年で、ネガティブだった雰囲気がいくらか変わってきたそう。私たちとしては、胸を張って「倉恋で出会った」と言ってもらえる内容にしたいと思って頑張っている。「合コン」に代わる単語がほしいが、なかなかない。

- ・昔は、結婚していることで、様々な手当などの支援をしている企業が多かった。それが、近年では能力評価になり、結婚して子どもがいる、扶養家族がいるということに対する金銭的なメリットがなくなってしまったことも、経済的な面からすれば、少子化の原因の1つになっているのかもしれないと感じる。

- ・結婚していない人があこがれを持てるような結婚をしてもらいたい。美観地区での挙式プレゼントをしているが、花嫁さんを街で見るとはあまりない。昔は、花嫁さんが家から出て、近所に挨拶をしてまわっていた。今は、式場や披露宴会場で着替えて、終わると普段着になって出てくる。子どもが、小さいうちから、花嫁さんを見るような機会を作るということも考えて、結婚式と花嫁を外へ持ち出すということをやっている。

- ・サッカーの観戦に行ったときに、キックオフ前に挙式をしていたのを見た。非常にほほえましく感じた。身近なところにあると結婚に対する意識が変わってくると思う。

- ・企業などの上司の方々にお願いしたいが、結婚式で挨拶などをするとき「結婚って素晴らしい」ということを伝えてほしい。昔ながらの上司の方は「新郎も、遊べるのは今日で最後だ」とか言う。否定的なことを言わないでほしいというのが、司会をやっているスタッフからのお願いだ。

7 知事まとめ

- ・立場を超えて、いろいろと意見を聴くことができ良かったと思っている。それぞれの個人のことはあるが、足し合わせると、地域の活力や未来など、様々なことに大きく影響してくる問題だし、個々で言えば「あのときのあの人と結婚しておけばよかった」といっても、時間を巻き戻せない問題でもある。できるだけいろんな情報を分かったうえで、10年後に後悔しないような行動や決断を今の段階でできるようにすることで、

満足度が高まることになる。改善の余地は多々あるということを気付くことができたし、皆さんの今後の活動にもヒントがあったのかなと思う。県の施策の参考にもさせていただきたい。